東日本旅客鉄道労働組合 東京地方本部　East Japan Railway Workers Union・TOKYO Regional headquarters　東京地本ＨＰ

JREU TOKYO
業務部速報

2025.11.18 No.016

発行：ＪＲ東労組東京地本 業務部

東地申第1号　「JR 東労組東京地本第 42 回定期大会発言」に基づく申し入れ団体交渉を行う④

6. 熱中症対策をさらに推進し、全ての組合員・社員が安心して働くために、以下の対策を実施し、労働環境を整えること。

1 ファン付きベストに装着する保冷剤を職場ごとに用意すること。

2 箇所の作業ダイヤに、熱中症リスク軽減を目的としたサマーダイヤ（仮称）を導入すること。

3 遮熱塗料の導入を検討すること。

回答

1 各箇所の実態に応じて、 必要により対応していく考えである。

2 作業ダイヤは、箇所長による定例的な業務指示・命令を図式化したものであり、これまでも繁閑に応じた柔軟な作業ダイヤの導入など、箇所の状況に応じて対応しているところである。

3 現時点で新たに遮熱塗料を導入する計画はないが、引き続き職場環境の改善については、社員等の意見を聞きながら必要な整備を検討していく考えである。

組合）夏の期間は着帽を任意として欲しいとの意見が組合員から上がっている。他社では既に始まっている取り組みだが、会社としての考えはあるのか。

会社）現在の所、着帽を任意にするために動いていることはない。そのような声があることは会社も把握している。

確認事項

① 制帽着用の任意にして欲しい等の意見は、出されていることは把握している。

② グループ全体として熱中症対策に取り組んでいく。

7.東京総合指令室においては過去より、事象が発生すれば休憩も取れず、 深徹が当たり前のようになっていることから、仮眠や休憩を取らせながら業務を遂行させること。

回答） 異常時対応は、状況に応じて判断していくものであり、引き続き適切な労働時間管理を行っていく考えである。

組合）指令は方面ごとに文化が違う。夜時間帯に異常時が発生した場合、特に応援をしなくて良いような場合でも先に就寝することができないような暗黙の雰囲気のようなものが蔓延している方面がある。

また、「車務」はできる人も限られているため、特定の社員が常に担務を回す状況となっている中で、異常時＝深徹のようになっている実態がある。

会社）M 電や貨物など距離が長いものは、異常時対応が長丁場になることはある。労働時間管理や超勤の指示については指令長が適切に行っている。会社として不必要な超勤の指示は今後も行わない。

「車務」の育成は、機関車の技術継承同様に課題としてある。年中運用調整をしている。運用指令で休憩できるようにていきたい。

確認事項

① （運用指令等を含めた指令室全体において）不必要な超勤の指示は行わない。

② 車務の育成は、機関車の技術継承同様に課題としてある。

⑤へつづく